

for CLEAR

CLEARのフィッティング画面

- 標準フィット : 標準的なフィッティング手順です。
- クイックフィット : 基本的な初期設定と微調整を短時間でを行うフィッティング手順です。

顧客

- 履歴 : お客様の難聴および補聴器の履歴についての情報を入力します。
- フィッティングの目標 : フィッティングの前にお客様と話し合い、フィッティングの目標を入力します。

選択

補聴器の器種を直接選ぶことができます。

フィッティング(初期設定)

フィッティング状況が表示されます。

- 計算条件 : 補聴器の初期設定に使用する条件を確認・変更することができます。
- センソグラム : 補聴器から測定音を呈示し、お客様の最小可聴閾値を測定します。
- フィードバックテスト : 補聴器を装着した状態で、ハウリングしないゲインの限界を確認します。

ファインチューニング(微調整)

ゲインや機能の設定を行います。

- サウンドダイアリー : お客様が補聴器を装着した環境を記録してデータを分析しますので、カウンセリングや微調整の際に効果的です。
- 調整の記録 : ユーザーの設定状態で特性を測定する場合に使用します。(テストモード2)

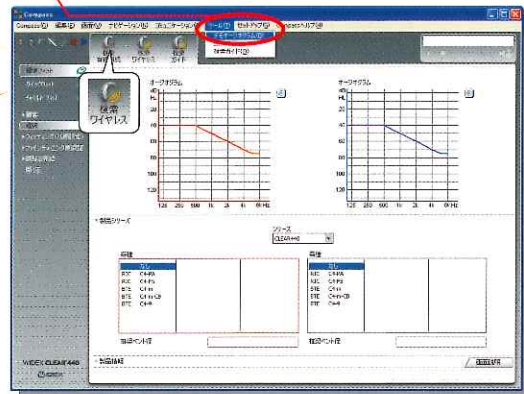
調整の完了

- 補聴器の構成 : お客様のニーズに合わせて、プログラムを切り替えた時のお知らせ音、バッテリーアラームの音などを変更することができます。
- ★ DEXマッチング : DEX機器を使うための設定をします。
- 説明ツール : お客様に補聴器とリモコンの操作方法を説明する際に使用します。
- 質問用紙 : フィッティング前に設定した質問用紙の目標が達成されたかをお客様と話し合います。

閉じる

★DEX機器の設定については「CLEARクイックガイド＜DEX機器とマッチング＞」をご参照ください。

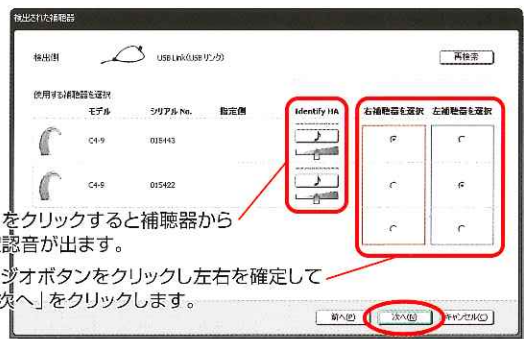
1 Compass Demoの場合は、「ツール」から「デモオーディオグラム」を選択し、オーディオグラムを入力します。NOAHを使用する場合は、NOAHにオーディオグラムを入力します。



2 「検索 ワイヤレス」のアイコンをクリックします。



使用しているインターフェースを選択して「次へ」をクリックします。



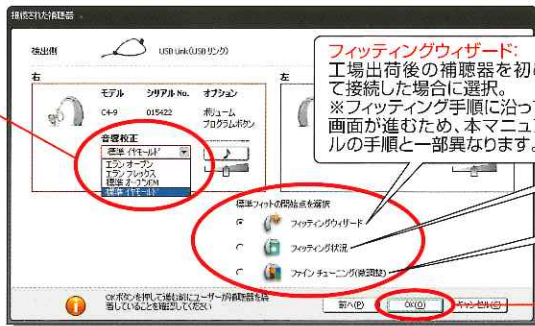
をクリックすると補聴器から確認音が出ます。ラジオボタンをクリックして左右を確認して「次へ」をクリックします。

！補聴器を読み込めない場合は…

- 次の内容を確認してください。
- ・補聴器はプログラミングインターフェースの通信範囲内に位置していますか？
- ・補聴器に消耗していない電池が入っていますか？
- ・補聴器の電源がオンになっていますか？

3 ユーザーが使用する音響構成のタイプを選択します(耳掛け型の場合)。

-PA、-FSモデルの場合はユーザーが使用するレシーバーのタイプを選択してから音響構成を選択します。



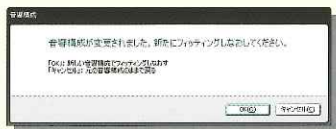
フィッティングウィザード: 工場出荷後の補聴器を初めて接続した場合に選択。＊フィッティング手順に沿って画面が進むため、本マニュアルの手順と一部異なります。

フィッティング状況: すでに設定されている補聴器のデータを消去し、新規でフィッティングする場合(試聴器の場合など)

ファインチューニング(微調整): 再調整の場合

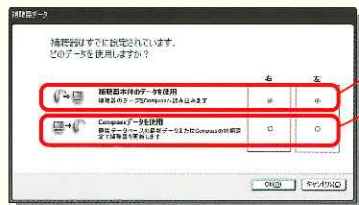
4 チェックを入れ、「OK」をクリックします。

！音響構成を変更した場合は…



確認のメッセージが表示されます。「OK」をクリックすると変換が開始され、補聴器に入っているデータは初期化されます。

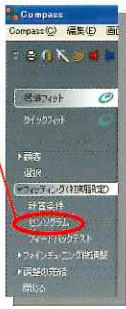
！読み込みの途中でこのメッセージが表示されたら…



再調整の場合
最初から調整直す場合

＜NOAHの場合＞ 補聴器からデータを読み込む場合は「補聴器本体のデータを使用」を、NOAHに保存されている調整を補聴器に上書きする場合は「Compassデータを使用」をクリックします。

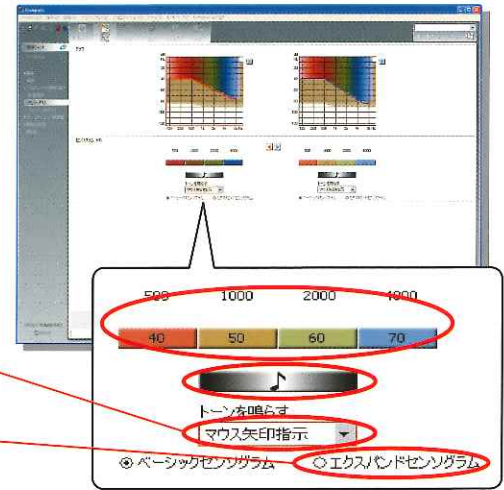
5 「センソグラム」をクリックします。



6 測定する周波数の欄をクリックした後、上下の矢印キーで音のレベルを合わせます。(各周波数の気導閾値+10からスタート)

7 カーソルを「」に合わせ、最小可聴閾値を測定します。(1000⇒2000⇒4000⇒500Hzの順番で測定)「OK」をクリックします。

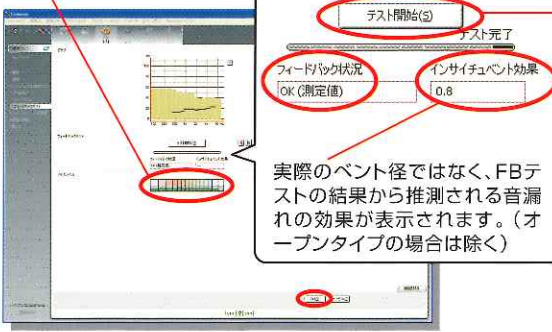
「マウス矢印指示」:
「」にカーソルを合わせると測定音が表示されます。
「手動」:
「」をクリックすると測定音が表示されます。
「自動」:
数値を変更すると自動的に測定音が表示されます。



8 「フィードバックテスト」をクリックします。



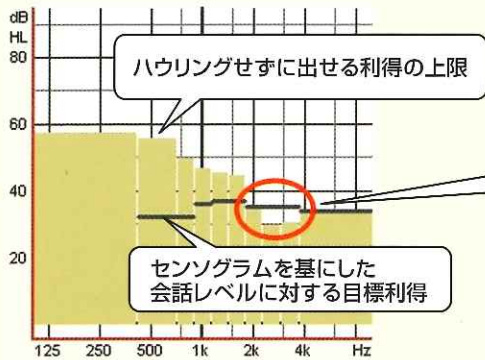
9 全てグリーンになっているか確認します。



10 「テスト開始」をクリックし、FBテストを行います。

「テスト完了」後、「フィードバック状況」の欄が「OK (測定値)」であることを確認し「OK」をクリックします。

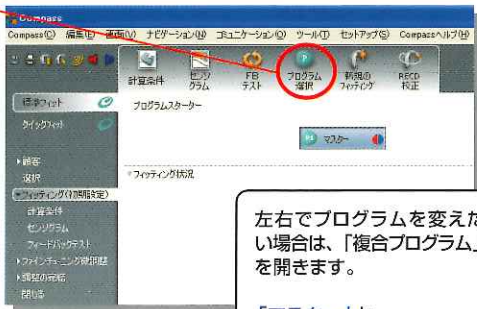
FBテストで「グラフ確認 (測定値)」が出た場合は・・・



緑の棒グラフが黒線を少しでも下回ると「グラフ確認 (測定値)」になります。
緑の棒グラフが黒線を下回った場合、ハウリングしないよう利得に制限をかけている状態で会話の聞き取りが十分できるか確認します。(目安として緑の棒グラフと黒線の差が10dBの範囲内であれば実用上問題ありません。)

シェル・イヤモールドのゆるみなどによる音漏れでハウリングしやすくなっているか、テスト中に周囲のノイズが入ってしまったことが考えられます。
補聴器を装着し直してから、静かな場所で再度FBテストを実行し、グラフを確認してください。
ただし、お客様の聴力がその器種のフィッティングレンジの上限に近い場合は、「OK」が出にくくなることがあります。

11 プログラムを設定する場合は、クリックします。(微調整画面でも設定できます。)



左右でプログラムを変えたい場合は、「複合プログラム」を開きます。
「マスター」と「テレコイル」
「マイクとテレコイル」
「オーディ」
「ゼン」
「後ろの音」
「電話」
の中から組み合わせることができます。

プログラムの詳細については別紙「コンパスクイックガイド CLEAR<プログラム>」をご参照ください。

12 プログラムを選択して「」をクリックすると、プログラムが追加されます。



13 「ファインチューニング微調整」をクリックします。

「標準フィット」でフィッティング中(フィッティング後)の補聴器を「クイックフィット」に変更した場合:
「標準フィット」でのフィッティングデータが消去され、「クイックフィット」での初期設定にリセットされますのでご注意ください。

基本的には、各プログラムの初期設定(*)でお使いいただくことをお勧めします。

グラフの変更
グラフの単位の変更

- HD ロケーター+デジタルピナ
- HD ロケーター
- HD ロケーター無指向性+デジタルピナ
- HD ロケーター無指向性
- HD ロケーター指向性(固定)

スピーチエンハンサー
・オフ
・騒音制御 標準(SIS)
・騒音制御 弱(SIS)
・騒音制御 強調(SIS)
・騒音制御 快速
※騒音下でうるさく感じる、高い音が気になるなどの場合は「標準(SIS)」を、騒音下で静かになりすぎるなどの場合は「弱(SIS)」をお試しいただくことをお勧めします。

トゥルーサウンドソフトウェア
・トゥルーサウンドソフトウェアプラスオン
・トゥルーサウンドソフトウェアオフ

スーパーゲイン
・スーパーゲイン最大
・スーパーゲインミュージック
・オフ

14 音の大きさや音質の各種調整を行います。

IGラウド
・かなり大きな音
・衝撃音の聞こえ
・自分の声(低域)

IGノーマル
・会話レベルの音
・少し大きめの音
・テレビの音

IGソフト
・小さな音の聞こえ方
・静かな場所での物音
・遠くの音の聞こえ方

順応 「順応」の段階を調整することによって補聴器の音に慣れるまでの間、使用する音量を下げた状態に調整できます。

4つの基本周波数バンドの設定をするか全ての周波数バンドの設定をするか選択できます。(モデルによる)

大きな音(ラウド) 大きな音の低域～高域の調整
小さな音(ソフト) 小さな音の低域～高域の調整

15 他のプログラムの音も聞いていただき、必要に応じて微調整します。

通常は、連結(マスターを基にした設定)になっていますが、各プログラムで個別に調整する場合は「ゲイン調整をマスタープログラムに連結しない」ボタンをクリックします。

16 「調整の完結」から「補聴器の構成」をクリックし、必要に応じて各項目の設定を変更します。

スタートモード:
補聴器の電源を入れた時のモードを変更できます。フィードバック対策(初期設定):補聴器を装着する際のハウリングを抑えるため、電源をオンにした後、約12秒間音が小さくなっています。標準:補聴器の電源をオンにした後、補聴器がすぐに起動します。

両耳間 構成:
これらの項目全てがオンの状態でCLEARシリーズの特長であるIE(両耳間協調)機能が十分に発揮されます。基本的に初期設定の状態でお使いいただくことをお勧めします。

ボリューム変化幅(初期設定値1.5dB):
ボリュームコントロール操作をした時の音の大きさのステップを1dBまたは2dBに変更できます。

チェックを外すと補聴器本体のボタン操作を無効にすることができます。

両耳間 協調機能
再耳間 協調機能
 ボリュームコントロール
 プログラム切替
 圧縮機能
 騒音制御(ON)
 フォードバックキャンセリング
 ゼン

オンの状態で片側の補聴器を操作するともう一方の補聴器も同時に変更されます。

＜補聴器から音を出して確認できます＞

ボリューム変更時(初期設定 有効):
チェックを外すと、ボリュームを変更した時のお知らせ音を無効にできます。

プログラム使用確認(初期設定 有効):
チェックを外すと、プログラムボタンを押した時のクリック音を無効にできます。

プログラム切替(初期設定 有効 スマートスピーク(音声)):
プログラムを変更した時のお知らせ音

動作開始時(初期設定 有効 スマートスピーク(音声)):
補聴器の電源を入れた時のお知らせ音

バッテリーアラーム(初期設定 有効 スマートスピーク(音声)):
補聴器の電池電圧が低下した時のお知らせ音

通信相手 未検出時の警告(初期設定 無効):
両耳装着時両耳間で通信が途切れた時のお知らせ音

スマートスピーク(初期設定 日本語 女声):
アイコンをクリックすると、スマートスピーク(音声)の言語と男声/女声を変更できます。

お知らせ音の大きさを変更できます。
レベル調整 - スマートトーン(初期設定 0):
スマートトーンのピープ音
レベル調整 - スマートスピーク(初期設定 0):
スマートスピークの音声
レベル調整 - プログラムボタン使用確認(初期設定 0):
プログラムボタンを押した時のクリック音

周波数 スマートトーン(初期設定 500-850Hz):
スマートトーン(ピープ音)の周波数を変更できます。

スマートトーン スピード - プログラム切替(初期設定 標準):
プログラムを変更した時のピープ音の間隔を変更できます。(例:ビッビッ/ビッ...ビッ)

	🎵 スマートトーン	🗣️ スマートスピーク
ボリューム変更時	上げた場合:ビッ (最大になると「ビー」) 下げた場合:ブッ (最小になると「ブー」)	-
プログラムボタン使用確認	コツツ(クリック音)	-
プログラム切替	ビッ ビッビッ ビッビッ ビービッ ビービッ	プログラム名を話します。 標準プログラムの場合: 「マスター」「AE」「ゼン」「ミュージック」「快適」など 複合プログラムの場合: 「マスターと電話」「マスターとマイクとテレコイル」など ゼンプラス(スマートトル)の場合: プログラムボタン長押し後「ポー」 (切り替えるごとに)~「ゼンa」「ゼンb」「ゼンc」
動作開始時	ポーン	右(左)準備完了
バッテリーアラーム	ビビビビ	電池低下

の部分が初期設定です。

プログラム切替/動作開始時/バッテリーアラームについてはスマートトーンに変更することもできます。

17 フィッティングと各種設定が完了したら、「閉じる」で終了します。

データ記録機能の開始/継続/停止を選択します。

18 調整データの保存の有無を選びます。(NOAH使用時のみ)

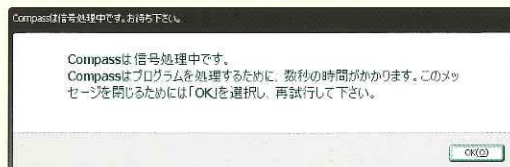
19 OKをクリックします。

チェックを入れた項目を印刷できます。

20 Compassと補聴器の間でデータの通信が終了すると、補聴器から「右(左)準備完了」(スマートスピーク設定時)または「ポーン」(スマートトーン設定時)と音が出ます。

そのままお客様は補聴器・リモコンの操作が可能になります。

! このメッセージが表示されたら...



コンパスを閉じた時、まだデータ通信中に補聴器が通信範囲から外れるとこのメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてコンパスが終了するのを待ちください。(コンパスを閉じパソコン画面上ではコンパスが消えていてもパソコンと補聴器の間でデータの通信が行われています。USBLinkまたはnEARcomのインジケータが早い点滅の時は通信中です。長い点滅の後ゆっくりとした点滅に変われば通信は終了していることを確認できます。)